

五高新聞

平成25年度 第2号

発行：五島高校新聞部

H25年度 ふるさと散策

強まる絆・輝く笑顔

雲ひとつない空、心地よい風、高まる期待、校長先生のブルージャケット、絶好のコンディションの中ふるさと散策は行われた。一年生にとっては初めて、三年生にとっては最後の散策だった。



五高生を迎えた香珠子ビーチ

香珠子までの道のり

今回のルートは、香珠子までの道のりを少し遠回りし、さらに帰りは行きと異なる道を行くというコースだった。トータルで二十一キロメートル。ハードな道のりだったことは間違いないだろう。だが、所要所に用意されたクイズや、友との会話で、あつという間に香珠子に着いたという声もあった。

一回目のクイズポイントは何と学校。歩き始める前から盛り上がり始めた。

二回目のポイントには五社神社。そこでは、五島の歴史に触れることが出来た。三回目のクイズでは「校歌」と「蒼き故郷」の作曲家を訊く問題だった。しっかりと正解できただろうか。今まで愛され歌われ続けてきたこの二曲の問題は是非正解してほしいものだ。そして香珠子に着いてからの最終問題、香珠子にある遊具はどこにあったものなのか。こんなに難易度の高い問題があるのかと私は目を疑った。皆さんの結果はいかがだっただろうか。

香珠子にて

目的の香珠子に着いたとき、きらきらと輝く海に疲れていた心身は、一新された。五島の自然の壮さに改めて気付かされた。ゆっくりする暇もなく、おいしい昼ご飯を食べている最中ふると散策、いや、ふるさと散策をより盛り上げてくれた彼らの姿があった。彼らの名はビッグフォア。昨年度の五高祭でも活躍した彼らの姿をもう一度見る



学年の垣根を越えた交流

ことができた。個性豊か、かつチームワーク抜群の彼らは生徒だけでなく、先生方にも笑顔をもたらした。衝撃的だったのは、そのまねである。本人を目の前にしてもまねをしようとすることは、とても勇気がいることだろう。しかし、彼らは臆するどころか、特徴を的確に捉えたものまねを堂々と披露した。驚くほど似ていた。ものまねをされた先生方は照れたように、まだまだだなという表情をされていた。イルカを探す。そして今回の目玉企画である「宝探し」が行われた。生徒会が事前に隠しておいたイルカをみなさんは得ることができただろうか。実際に見た人は分かるだろうが、大きさと透明感からして、見つけることが困難だということに明白だった。それでも友達と仲良くイルカを探し、ゲットした人の笑顔は香珠子の海にも負けないくらい輝きを見せていた。香珠子での時間はあつという間に過ぎ、発つ時となった。

故郷の自然に感謝
行事等で訪れる場所では必ず、帰る時には掃除をすろん掃除した。この美しき故郷を汚してはいけない。この自然に育てられてきた私たちがからこそ心から自然に感謝し、掃除をしなければならぬことを忘れてはいけない。

帰り道

香珠子を美しくした私たちは帰路についた。残りの約十キロを様々な表情の生徒たちが歩



竹添先生も大喜び
これは本格的に五島高校ライフが始まる。一つひとつの行事に真剣に楽しんで取り組んで欲しい。(紅)

ていた。疲れを隠せない生徒、笑顔で友人たちと会話を弾ませる生徒、道中の景色を楽しむ生徒。学校に到着した生徒たちは疲れた表情もあったが達成感に満ちていた。

五島高校ライフ

一年生としては初めての行事が終わり

五高写真館



皆の想いを受け、いざ戦いへ(槍)

平成25年6月28日(金)

「野球部・甲子園予選長崎大会 壮行式にて」

身につけていますか 五高生として

皆さんはマナーを身に付けているだろうか。高校生というのは子供と大人の境界とも言えるような時期にある。そのような時期にきちんとしたマナーを身につけていないと決して立派な大人にはなれないはずだ。



五高生がよく利用するコンビニ

最近、五高生のRC(コンビニ)前やバス停でのマナーの悪さや、バス内でのマナーの悪さが目に余るように思えるのは気のせいだろうか。

きっと皆さんも、道やバス内では騒いではいけないという当たり前のことは分かっているはずだ。しかし何故、今このような状況になってしまったのか。それは、人間が集団になると理性が外れてしまうような弱い生き物だからである。

例えば、友人との会話が盛り上がってつい声が大きくなってしまふ。公衆電話を使っている友達の近くでたむろしてしまふ。誰でもしてしまふようになってしま

まうような行動だが、どうだろう。このような行動を大勢の人たちが一斉にしたら。見当がつくはずだ。ある一年生にバスでの五高生の姿について聞いてみたが、入学したときから今のようないざこざだったため、これが当たり前だと思っていたらしい。決して二、三年生が直接の原因だとは言えないが、少なからずこの状況を作り上げてしまった責任はあると思う。そして一年生も中学校で学んだはずのマナーを守れているとは言えない。



バスに乗り込む五高生

そして、自分に問いかけてみて欲しい。(紅)

◆お知らせ◆

五スポ発行&五高新聞HP完成

スポーツ五高(通称・五スポ)の高総体特集号を発行しました! 図書館と、体育館渡り廊下前の掲示板をご覧ください! 今後、先日行われた競技大会の様子も掲載する予定です。お楽しみに!

また、新聞部のホームページが完成しました! 五島高校のホームページ内に、新聞部専用ページを作りました。

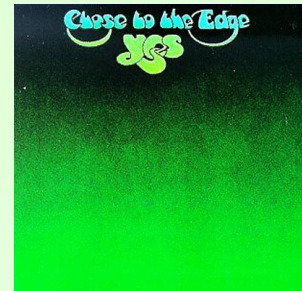
「五高新聞」や「スポーツ五高」のPDFを閲覧することができます。フルカラーです。是非チェックしてください!

☞URL <http://www.news.ed.jp/goto-h/gokounews/gokounews.htm>

編集後記
夏が始まった。と言われても「いつものことだから」と思ってしまうだけの人も多いだろう。しかし、夏は毎年、異なった姿をしている。勉強の夏が始まった。勉強の夏、部活動の夏、高3の夏、五高生の夏、そして新聞部の夏。(降)

CDレビュー

YES "Close To The Edge ~危機~"



<収録曲>

- ① Close To The Edge
 - I. The Solid Time Of Change
 - II. Total Mass Retain
 - III. I Get Up I Get Down
 - IV. Seasons Of Man
- ② And You And I
 - I. Cord Of Life
 - II. Eclipse
 - III. The Preacher The Teacher
 - IV. Apocalypse
- ③ Siberian Khattru

危機。それがアルバムの名前だ。この言葉から、何かに脅え、切羽詰まったイメージを抱く人も多いだろう。しかし、私はこの作品を聴き、限りなく美しい危機を覚えた。イエスのバンド、イエスは私たちに色褪せない新しい音楽を届けてくれる、プログレッシブロックという形で。張り詰めた緊張感の中に流れてくる鳥のさえずりや川のせせらぎ、これが①の第一章のイントロだ。その生物たちが生んだ静寂を突き破る不協和音。しかし、この不協和音は心地いい。複雑な曲展開の中で四つの楽器が織り成すハーモニーには何の矛盾もないのだ。アコースティックな雰囲気②はゆったりとした演奏にボーカル、ジョンの幻想的な声が交わり「癒し」を与えてくれる。その柔らかさや透明感には聴く人を飽

きさせない魅力がある。イントロのエレキギターが印象的な三曲目は曲の終わりに向かい全員で突き進むような疾走感がある。エッジの効いたギターの後ろではベースとドラムが躍動していてキーボードの速弾きも鳥肌モノである。特にピックで弾かれているベースの硬質なサウンドは曲全体にグルーブを生んでいる。一曲の長さは最大で一分もあり、交響曲を思わせる大作志向だ。プログレッシブ・ロックというロックは「歌+演奏」という楽曲の概念を覆した。イエスからこの形で届けられるロックには神秘的というよりもはや神々しさを感じるほどである。この作品を聴けば「美しい危機」の意味がきつと分かる。聴かなければ分からない。さあ、君の再生装置を起動させよ!(降)